

ハ乙女

編集 南山見公民館
発行

昭和62年10月25日発行

No. 30

富山県東砺波郡井波町川原崎
電 (0763) 82-5176

南山見地区体育祭
九月二十七日



活力ある地域に

倉嶋悦子

「活力とぬくもりに満ちた地域づくりを」が、今年の県婦人会のスローガンであります。

井波町は、やがて開町六〇〇年を迎えようとしています。これを機会に伝統ある郷土を今一度見直して、より一層活力ある地域づくりに取り組んでいかなければならないと思います。

先般、「六〇〇年前の井波の歴史」「三年後の開町六〇〇年祭の趣旨」の話聞いて、瑞泉寺建立の紳如上人以前のルーツが、当南山見地区に深くかわかっており、脈々と地域づくりに努力が払われてきたことを知って、今後のあり方を改めて認識させられました。

経済万能の時代、ことに婦人は仕事と家庭の両立に精いっぱい、ともすれば地域活動などへの参加が怠りがちになるかと思えます。けれども、長い人生を豊かに生きるために、人と人との交わりをより強くし、もっと社会参加が必要であるということからも、先人達より培われてきたこの地域に感謝して、その特性を活かすように努力し、いろいろの機会に積極的に参加するよう心がけたいものです。

「物より心の時代」といわれております。今、多忙の中にも多くの人が進んで参加したくなるような魅力的な事柄を皆で考えて実行できたならば、より一層、心の輪も得られ、私達の地域の活性化にもつながることでしょう。

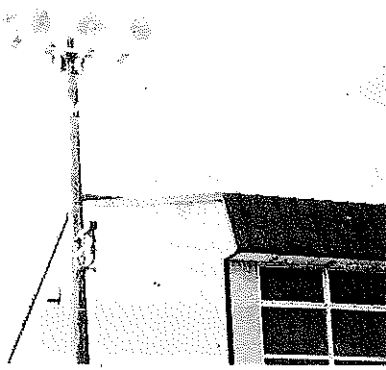
時代の波に流されることなく、少しでも意識を高めて努力していきたいものです。

待望のグランド照明

去る八月十五日、納涼祭にあわせ町長さん臨席のもと、グランド照明の歴史的な点灯式を盛大に挙行することができました。

ここに改めて昭和二十一年生れ、昭和二十二年生れの方々の初老記念としてのご芳志、本年度運営審議委員のお心づくしに対し、心から感謝申し上げ、厚くお礼申しあげます。

今後、いよいよ公民館活動の進展と共に、郷土の輝しい光となるよう皆様とともに期待いたしたいものです。
(館長)



青年の翼に参加して

朝倉 毅

私達、第十七回富山県青年海外派遣(明日を拓く青年の翼)一行は、五月二十日から十三日間の海外研修を終え、六月一日無事帰国の途に着了いた。

今年の一月中旬に行なわれた面接に始まり約半年間、それまでの生活環境とは全く変わり、宿泊研修や数々の作業に追われる毎日で、派遣の準備に手も及ばない程であった。

昨日まで知らずにいた新しい仲間との出会いや共同生活を通じて得たこと全てが新鮮で、積極的に活動する仲間を見て「今の若者は……」の定評に対し優越感と頼もしさを覚えた。

五月二十日午後二時四十五分に富山空港を出発。成田空港では、農業部門が一般部門より一時間早くフライトし、再会を願って一般も午後十時三十分元氣よくフライトした。機内から見るアンカレッジの広大さ、果てしなく続くアラスカ氷河の壮大な景色は、言い表せない程の感動をおぼえた。目的地はヨーロッパ(一

般は、ハンガリー・スイス、農業はオランダ・スイス)とあって十八時間の空の旅である。

夢でしか見れないと思っていたあのヨーロッパへ、今向かっているという実感もなかなか湧かず、寝ても食べても欧州は遠かった。

日本との時差は八時間、ロンドンのヒースロー空港到着は、二十一日朝六時過ぎ、早朝に吹く風は、まだ春先といった冷たさであった。

ヒースローからは飛行機とバスを利用して、ハンガリー・ブタペストへと向かった。途中ウィーン市内を駆け足で視察。夜も更け、強く降る雨に明日からのホームステイの不安はつのるばかりであった。

二泊三日を、一人一家庭。言葉も通じないのに、今思えばよく過ごせたと不思議でたまりません。親切なジュルキゲイエステルさんと、コオピエルエリカさんの母子家庭でした。感動と感謝の連続で、H・Sは終わり、このような機会を与えて下さった方々に御恩をお返しする事も含めまして、微力ではありますが、一人でも多くの人々に、私達の気持ちを伝える事が出来るように努めたいと考えております。

寿賞のみなさん紹介

井波町長寿者番付

- | | |
|------|--------------------|
| 東方横綱 | 箭原 つや
(97才 連代寺) |
| 西方横綱 | 富田 はる
(97才 沖) |

〔米 寿〕

- | | |
|--------------|-------------|
| 山田 かし
山直前 | 田本 江川
直前 |
|--------------|-------------|

〔傘 寿〕

- | | |
|-------|----------------|
| 長田 長松 | 田 恵崎
久 岩箭倉富 |
|-------|----------------|

〔喜 寿〕

- | | |
|------|------------------------------|
| 長田 吉 | 田 助尚
谷倉 綾
朝倉 美
昌原 宮 |
|------|------------------------------|

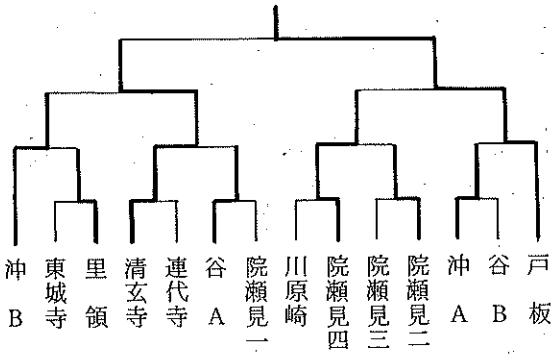
二義次や子の久

井波町体育祭でW優勝

十月十一日、井波中学校グラウンドにおける第十六回井波町体育祭で、総合優勝—四連覇達成。年代別リレーも種目優勝。

第八回バレーボール大会

(8/16)



第八回南山見地区体育祭

(9/27)

- 総合優勝 5組 (院一・二)
 次勝 1組 (院三・四)
 参勝 4組 (戸・里・川)
 リレー優勝 4組
 次勝 5組
 参勝 1組

スポーツの記録

第三回

フレッシュユテニス大会

(6/22~6/27)

- ◇四十歳未満の部
 一位 山本昌平・山本智子チーム
 二位 山田敏行・山田美知代チーム
 三位 田中一昭・田中照美チーム
 ◇四十歳以上の部
 一位 松井泰範・松井正子チーム
 二位 岩崎光雄・岩崎栄子チーム

第三回 井波町

ビーチバレーボール大会

(9/1~9/4)

- 男子34歳以下の部
 優勝 沖チーム
 男子35歳以上フリーの部
 優勝 今里コシヒカリチーム
 男子45歳以上の部
 優勝 沖チーム
 女子34歳以下の部
 優勝 沖むつみ会Aチーム
 女子35~44歳の部
 優勝 沖チーム
 女子45歳以上の部
 優勝 沖土の子会Bチーム

第十八回児童クラブ野球大会

(7/19)

次勝 南山見児童クラブ

第六回児童クラブ女子

ソフトボール大会 (7/19)

優勝 南山見児童クラブ

第十回 両砺波郡児童クラブ女子

ソフトボール大会 (8/4)

次勝 南山見児童クラブ

第十二回 井波町夜間

バレーボール大会

(10/15~10/20)

優勝 戸板・里領チーム



第四回南山見地区

ビーチバレーボール大会

十一月三十日~十二月五日

受賞おめでとう

- ▼井波警察署区域
交通安全協会表彰
- ▼南山見婦人会

▼第三回みどりの少年団

活動発表大会

最優秀賞 井波みどりの少年団

▼富山県スポーツ奨励賞

- 銅 俊 昭
- 林 み つ 子

三方岩岳登山

八月二十三日、健康保持は、自励努力。参加に意義ありとばかり公民館主催の体力づくりレクリエーションに加わった。

出発八時。三〇四号線は道路沿いに美しい花壇の連続である。

鳩谷より白山スパー林道に入る。岐阜と石川の県境の三方岩岳駐車場より一七三六メートルの山頂までは八〇〇メートルとのことで、気軽に挑戦したが、中間ぐらいで平素の運

動不足が現われ、他の参加者の五割増の時間を要した。

山頂では残念ながらガスがかかり附近の山々ははっきりしなかったが、冬の厳しさが立木や岩肌、植物にも現われていた。山頂で昼食。缶ビールの味は格別である。

約一時間後下山。今度は膝が笑う。ふくべの大滝、姥ヶ滝等、滝の連続、紅葉時には殊に素晴らしいと思われる。中宮温泉、国民保養地の一里野自然公園で小憩。帰路についた。いい思い出のレクリエーション。

現在、五十六名の会員がおり、地域に根ざした活動を行なっております。

まず、正月には善休寺において報恩講を営み、続いて役員を選出して心を新たにして新年を迎えます。

三月の春祭りには、約百年の伝統を持つ獅子舞いを奉納しております。先輩諸兄の指導を受けた半月の練習成果を出そうと、当日は笑いの中にも真剣さがみ

られます。次に八月十六日の院瀬見納涼祭を紹介します。今年で十回目になりましたが、村の人が一堂に集う行事として定着してきております。内容は、生バンドによるのど自慢ですが、「今年はどうなるかとするがけ？」と話題になるようになりました。婦人会・さんざし会・各種団体のご協力で今年も盛大だったと自負しております。これからもご指導をお願いいたします。

(山崎)

運転してくださった田中俊雄さんに感謝いたします。(前川)

転作について

今年も大豊作で大変嬉しい年ですが、秋のフェーンと台風により上位等級が八〇%を割って、屑米の多い年になりました。

来年度の転作も大巾な数字が政府より強いられることが予想されます。財界の農家いじめ農協いじめで米の統制撤廃にならない先に、南山見特産物の安定化を図りたいものです。

タバコの契約栽培、モチ米・酒米の契約栽培、ライ麦・ビール麦の契約栽培等、最近ではトマトの契約栽培などもあります。当地方に最適なものを選び、又新たに考案したものを

南山見特産の「ホウキンの実」が最近ではNHK・家の光等が取りあげて全国放送をしてくれたおかげで、問合せ、注文が殺到しています。安定した特産物を選定栽培育成し、マスコミを利用してPR販売したいものです。

(農協支所長 原田)

第十回

南山見地区文化祭

十一月十五日(日)

作品展示・ステージ発表
農産物品評会・バザー

編集後記

秋も酣。広々と続く麦畑の緑が美しい。トヨアシハラミズホのこの国に稲作が渡ってきたの二千三百年は、「飢え」との戦いの歴史でもある。国中がなんとか食するようになったのも四十年。米が余るようになったのも僅々十年余。

大転機である。稲作が文化に及ぼしてきた役割と、米食文明についての見つけ直す時機でもある。

今年度も折り返し点を過ぎた。夜間照明の完成、町の体育祭をダブル優勝で飾っての四連覇……等々。収穫の秋は文化の秋でもある。差し迫った文化祭も成功させよう。ふるさと山路がかりに秋の暮

亜浪 IK